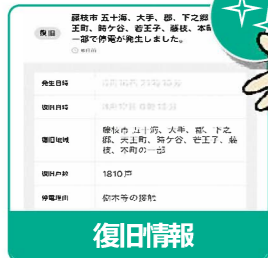


停電情報を手に入れよう！

停電発生エリアを
状況ごとと色分け表示



復旧地域や戸数
停電理由を細かく表示

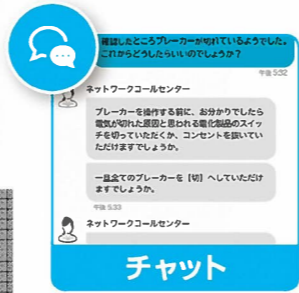


停電情報
お知らせサービス



停電した時、こんな無料アプリ
があるって、知ってました？

プッシュ通知で
すぐにお知らせ



チャットで電気設備の
相談ができる

無料ダウンロードはこちらから



iOSはこちら



Androidはこちら



アプリの導入背景

中部電力では、2018年の台風21号、24号被災時、お客さまからの入電応答率が著しく低下したことから、停電発生時に早期に情報を発信し、入電数を削減することが課題となりました。



地震、台風、落雷など大規模災害発生時において、電話（有人）対応頼りの情報提供では限界があることから、電話に頼らない情報発信媒体の拡充が必要と認識しました。

アプリのコンセプト

- *スマホで即座に見れる・繋がる安心感
- *必要な情報が手に入る満足感
(✓プッシュ通知で知らせてくれる ✓地図で自宅付近の状況が分かる)
- *何かあったらすぐ相談できる手軽さ (✓電話ではなく、チャットによる相談)
- *設備事故などを状況写真付きで通報できる利便性 (+対応方法が分かる)

中部電力パワーグリッド 停電情報



中部防災だより NO.13

令和4年
秋号

トピックス

- ・洪水浸水ハザードマップを確認！！
- ・近年の台風の特徴と備えについて知ろう
- ・停電情報を手に入れよう！



編集・発行
静岡県中部地域局
藤枝市瀬戸新屋 362-1
藤枝総合庁舎本館2階
TEL 054-644-9104
Mail chubu-kki@pref.shizuoka.jp

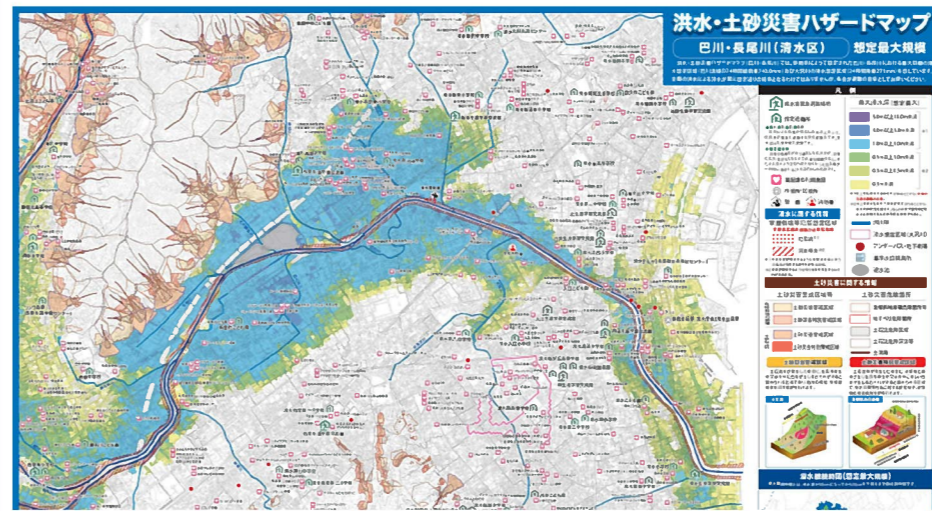
台風が大型化している!?

これから本格的な台風シーズンを迎えます。近年、台風が非常に強い勢力を維持したまま日本に接近、上陸し、大雨、洪水、暴風などから川の氾濫や崖崩れなどが発生、各地に大きな被害が度々発生しています。そんな台風から身を守るために、秋号では「近年の台風の特徴とそれに対する備え」をテーマに台風に関する知識や備えについて紹介します。



洪水浸水ハザードマップを確認！！

まずは、ハザードマップ（災害の危険がある場所を示した地図）を見てみましょう。津波や土砂災害について、目にしたことがある人は多いと思いますが、洪水浸水について見たことはありますか？お住まいの地域や事業所周辺の洪水浸水の危険箇所について確認しておきましょう。



ハザードマップは、各市町のHPから見る事ができます。防災アプリ「静岡県防災」からも簡単に確認することができます。また地域の危険性や周辺の避難場所、警報等の発令状況なども確認できます。

「防災アプリをダウンロード」



「静岡県防災」のダウンロードは
こちらから→



「静岡県防災」の使い方については、『中部防災だよりNo.1（令和元年秋号）』を御覧ください。

<https://www.pref.shizuoka.jp/soumu/o-450/merumaga.html>

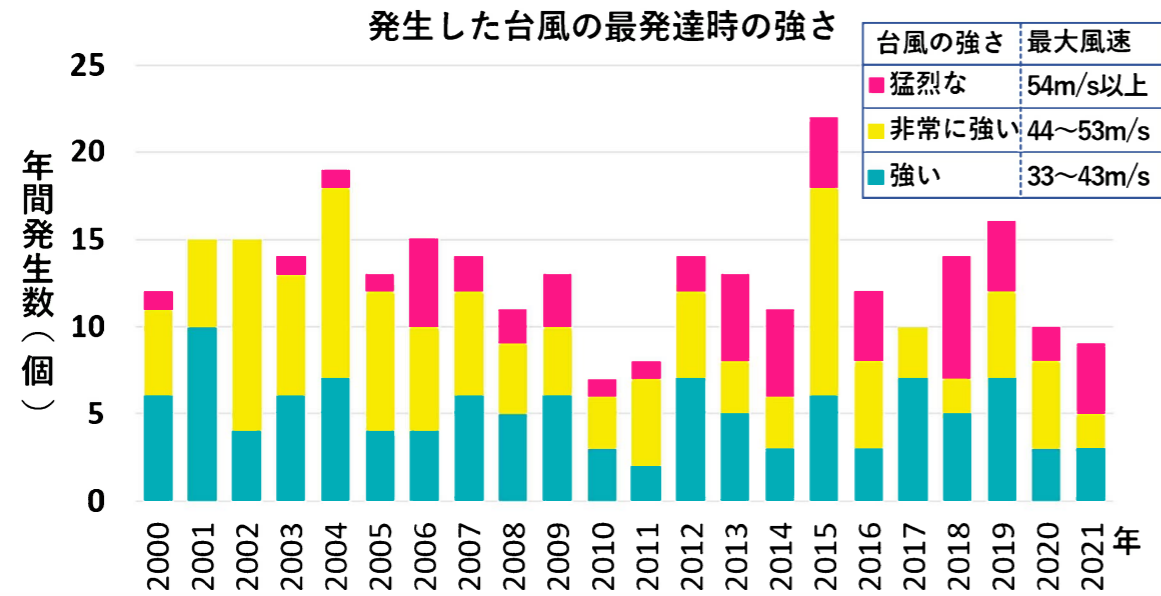
NHK ニュース・防災等の無料防災アプリもあります。



近年の台風の特徴と備えについて知ろう

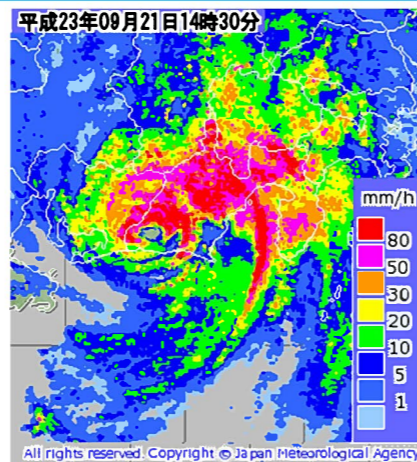
台風の強さの経年変化

将来、地球温暖化の進行に伴い台風の強さが増す可能性が指摘されています。2000年以降に発生した台風では、猛烈な台風に発達する数が増えています。今までに経験したことのない台風がいつ接近しても不思議ではない時代になりつつあります。

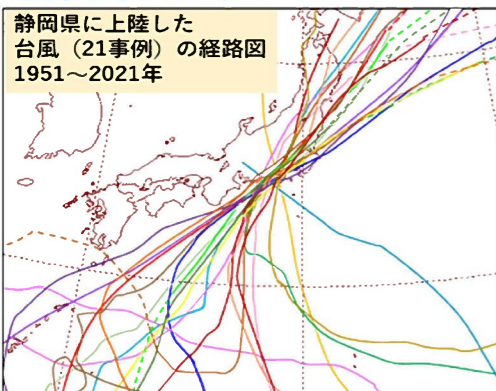


過去の台風では...

台風が接近するとそれまで穏やかであった雨や風が激変します。右図は2011年9月21日台風第15号が浜松市に上陸したときの気象レーダーです。1時間に80ミリ以上の猛烈な雨をもたらす雨雲が静岡県を形とるように覆っています。静岡県は台風の雨雲をさらに発達させやすい地形となっているため、雨量が多くなる特徴があります。また台風第15号では御前崎で最大風速29.7メートル(最大瞬間風速45.1メートル)など各地で非常に強い風を観測しました。



静岡県に上陸

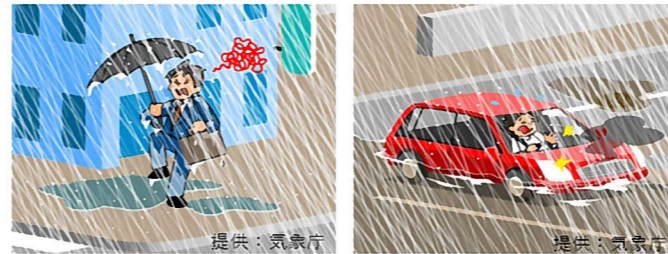


統計開始(1951年)から2021年までに静岡県に上陸した台風は21個ありました。これは全国で4番目に多く、上陸の半分以上は9月~10月に集中しています。上陸数は今と昔を10年単位で比較しても大きな差はありません。台風は上陸だけが怖いわけではありません。七夕豪雨(1974/7/7-8)は日本海を台風第8号が通過中にもたらした大雨でした。台風がもつ水蒸気は類を見ない大雨をもたらす場合があります。

台風が接近すると...

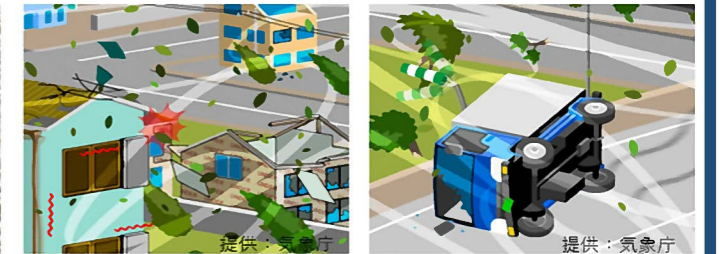
台風が接近すると、命の危険を脅かす強さ、高さで雨、風、波などが同時に襲ってきます。例として雨の強さと降り方、風の強さと吹き方を図に示します。このような時に外に出て行動することは極めて危険です。

非常に激しい雨(1時間50ミリ以上)



雨が滝のようにゴーゴーと降り、傘は役に立ちません。水しぶきで回り一面が白っぽくなって視界が不良となるため、車の運転は危険です。

猛烈な風(風速30メートル以上)



多くの樹木が倒れ、電柱や街灯で倒れるものもあつたり走行中のトラックが横転など屋外での行動は極めて危険。40メートルを超えると住宅で倒壊するものがある。

台風の進路予報

命を守るためには、台風が接近する前に安全な場所へ避難することが大切です。台風接近を知る情報を2021年台風第16号で説明します。

- ①台風情報では、5日先までの予想進路を発表
- ②赤色の太実線の円は暴風域で、風速25メートル以上の暴風が吹く可能性のある範囲を示している。
- ③黄色の実線の円は強風(風速15メートル以上)が吹く可能性のある範囲を示している。
- ④白色破線の円は予報円で、台風の中心が到達すると予想される範囲を示しており、台風の大きさの変化を表すものではない。
- ⑤予報円の中心を結んだ白色の破線は見やすくするためのもので台風の中心が必ずしもこの線に沿って進むわけではない。
- ⑥予報円の外側を囲む赤色の実線は暴風警戒域で、台風の中心が予報円内に入った場合、暴風域に入るおそれのある範囲全体を示している。



台風に備える

備えは大雨が降る前、風が強くなる前に終わしましょう。台風の接近により、暴風警報が発表されている場合、不要・不急の外出は控えましょう。

家の中の備え

家の中の備え

- ・非常用品の確認
- ・万一の飛来物の飛び込みに備えてカーテンやブラインドをおろしておくなど室内からの安全対策
- ・水の確保

危険箇所や避難場所の確認

- ・ハザードマップで土砂災害や浸水害のリスクを事前に確認しておく。
- ・学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認しておく。

家の中の備え

- ・窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要に応じて補強する。
- ・側溝や排水溝は掃除して水はけを良くしておく。
- ・風で飛ばされそうな物は飛ばないように固定したり、家の中へ格納する。